

3月に入ってから雪解けの速さ、春の訪れの速さはすごいものでした。あっという間に大地周辺の雪がどんどん減っていき、久しぶりに土が見え始め、そして、秋に植えたパンジーたちが現れ、クロッカスや水仙たちも顔を覗かせました。春の訪れをじっくり感じるよりも、いきなりあれよあれよという間に来てしまっているという感じです。冬を十分名残り惜しいと感じる暇なく。でも、大地の東斜面や日陰に行くと、まだまだ冬世界を味わえることは魅力的です。さらに、長野は、ちょっと車で走れば、スキーや登山なども十分楽しむことができ、冬気分を5月ぐらいまで十分楽しむことができるのも魅力です。

3月、卒業の時期が近づいても、大地の暮らしは最後まで変わりません。もちろん、卒園式の練習や準備もなく、子どもたち特に年長児も、最後の最後まで普段のリズム通り、この季節のわらべ歌やお話をたのしみ、外では、雪遊びや散歩など、この年齢 この大地でしか楽しめない世界を普通に満喫していること、これ自体が貴重なそして大切な事だと感じています。大人は、センチメンタルな気分や感傷的な気持ちになりたいこともありますが、未来に生きる子ども達、明日だけを考えて生きていく幼児には、過去を感傷的にふり返ることなく、これからの現在以降の世界を共に最後まで歩んでいきたいと願っています。だから、子どもたちには、「もうすぐ卒業だね、もう最後だね」などの会話は、こちらからしたり、話題にすることはありません。大人の感傷や思いは幼児にはしまっておきたいと思っています。最後の最後まで、普通の大地で普通の暮らしをしてほしい、大地の暮らしは人生の自然の通過点であっていいと願っています。



【6月までは動く】

先日 占星学のセミナーに参加してきた。経営セミナーの色が濃いものであったが、講師は、家族ともどもお付き合いのある友人であり、長野で講演があり、6年ぶり位に会えるという事で、妻と出かけてみた。その中で、占星学の話があり、今年6月までは、とにかくチャレンジして動こうという事であった。そして、その中でも、〇〇座（何座か忘れてしまったが）の人は、更に素晴らしい。占星学には多少興味があり、これらのスピリチュアルな事は、やるもやらないも信じるも信じないも、全く誰にも迷惑がからず、更にお金のかからない事なので、こういう場合は、面白いから信じてやってみることにしている。

だから、何でも6月まではチャレンジしてやってみよう、それを家族含めてどんどん動こうと思っている。結果を恐れずに。

今月7日、昨年元旦の火災後以来、久しぶりに家族全員子どもたち4人、そして、私の両親も入れて家族8人が集まった。それぞれ子どもたちが大きくなり、大地の2階の部屋はとても狭くなり、テーブルも窮屈になった。全員集まるというのも、導かれた偶然であり、それぞれが動こうとしている結果であった。

長男は翌8日に、スキーを担ぎ京都へ向かい、10日にカナダへ旅立った。3月4日に白馬のスキーパトロールの仕事を終え、大地の子どもたちにも時々顔を出しながら、準備していた。去年は妹と大地の給食で謎のインド人となり、子どもたちに大人気であった。カナダでは、3か月間登山学校の学生となり、心身ともに学び、6月後半に北米大陸最高峰のマッキンリーに挑戦し、帰国して、夏休みに子どもたちを集めて野外教室を企画して、秋にヒマラヤの6000mに挑戦する予定だと言いつつ旅立った。相変わらずエネルギーに動いている。今はただ、マッキンリーから無事帰ってくることを祈っている。

長女は、久しぶりに家族全員会う事のタイミングを見計らって休みを取って、京都から帰って来たのか定かではないが、偶然ひな祭り会の給食があると話したら、是非自分に作らして欲しいとエネルギーに言ってくれた。昨年1年間は、大地ののんのん給食として活躍してくれた。この体験が実に鮮烈だったらしく、この4月から小児栄養学学科で、管理栄養士を目指して学校へ進学する。授業料だけは出してほしいとお願いされ、生活費はすべて自分で賄うとずっと働いていくらしい。ひな祭り会では、見事に素晴らしいオリジナル芸術的センスのあるちらし寿司を作ってくれた。長女は、リンゴ農家をしながら、大地で給食を作ることを人生設計としている。嬉しい限りである。こちらも、自分で見事に動いている。

さて、2月中旬から大地で日毎に、人気をあげている次男の雄河。大地を継ぐのは、やはり雄河であろうと言われるほどになっている。日毎に、まわりつく子どもたちの数が増している。雪遊びで斜面を滑り降りる時は、半分以上の子どもたちに乗られている。とにかく面倒見がよく、丁寧に優しく、先を見る目があり、プロジェクトマネジメント能力は秀でている。中高とテニスで輝かしい実績をあげてきたが、記憶して覚えるというつまらない勉強は嫌いであることが、幸か不幸か禍したのか、素直なのか、悩んだ挙句、1年で大学を休学する決定をして、長野へ戻ってきた。それでは、何をしたいのか、休学して何をしたいのかを決めないままではまずいと、家族で悩み、兄弟と相談して、とりあえず、大地の子どもたちと過ごすことにした。テニスだけしかしてこなかったし、様々な人たちと話したり、交わったり、様々な世界を見てくる機会が少なかったのだから、大地の子どもたち、保護者の方たち、そして、特に、兄と姉と話したりして、いろいろ刺激を受けたらいい。夜の会話も、日毎に子どもたちが可愛いという話題が多くなっている。あれだけ子どもに慕われたら、それは嬉しいだろう。次男は、4月から11月まで、蝶が岳ヒュッテの山小屋で働くことを希望した。雪山で小屋を掘り起こすことから、小屋閉めまで、みっちり厳しい世界で働いてくることを決め、その後、兄と同じようにスキーパトロールをして、来春は、バイクで旅に出て、自分の道を考えるらしい。次男もようやく自分の気持ちで動き始めた。

末っ子は、前月号で書いた通りであるが、高校入試が終わり、発表を待つのみである。それからは、大好きな野球漬けの毎日が始まることであろう。こちらは、自分の足で動いていくであろう。

大地も、のののはな文庫兼セミナーハウス兼宿泊施設建築に向かっていよいよ動き出す。昨年の火災の無念を晴らすべく、そして落とし前をつけるべく、そして、結婚30周年、大地20周年、文庫10周年を記念すべき建築を開始する。自分たちの人生の記念すべき事業として動き出す。この場所を精神的拠り所として、たくさんの人達が集える、出会う縁が広がる場となっていくことを祈っている。

とにかく動く、チャレンジする、夢と希望を持って動いていく、美しい星を見ながら、その星の軌跡を描きながら歩いていこう。まだまだ、子どもたちと共に、いや子どもたちを牽引していくエネルギーで歩いていこう。